鹿児島国際大学福祉社会学部 2023年６月
児童相談センター年報第37号 pp. 73-78

児童相談センター企画

「発達障害のある子どもの理解と支援」
―錦江台まちづくり協議会福祉部会と連携した研修会の開催―

企画者：古　賀　政　文

１　企画内容の設定理由

筆者は、現在、錦江台まちづくり協議会福祉部会に所属し、活動している。錦江台まちづくり協議会は「錦江台小学校区における身近な課題の解決や地域資源を生かした活動など地域主体のまちづくりに取り組み、連帯感と活力に満ちあふれた地域社会づくりに資する」ことを目的に、平成30年に設立された。

福祉部会は、「みんなで支えあい助け合うまち」「人にやさしく住みよいまち」を目指す姿ととらえ、「諸福祉施設と連携し、福祉見守り活動や健康づくり活動の充実を図るとともに、近隣住民が支え合う相互の気風を高め、要支援高齢者等にやさしく住みよいまち」を目指し、研修会や施設見学、福祉マップの作成等の活動を行ってきている。

一方、当児童相談センターの目的の一つに、「地域社会のニーズに応え、地域社会へのサービスに役立てること。」が明示されている。最も身近な地域社会のニーズにこたえ、地域社会と連携することが、当児童相談センターの役割と考え、昨年度は、筆者が「心のバリアフリー」と題した研修会を実施した。「みんなで支えあい助け合うまち」「人にやさしく住みよいまち」を目指すためには、「自分とは違う条件を持つ人々がいること（多様性）、その人たちがどんな人でどんなことに困っているのか、お互いを知ろうとコミュニケーションをとりながら認め合って、共に暮らすこと」の理解が重要であることを理解してほしかったからである。

本年度の研修会を開催する当たり、部員等から、「この地域で、いわゆる発達障害のある子どもに接することがあるが、発達障害とは何か、どのように接したらよいかわからない」との意見があり、本年度は、「発達障害のある子どもの理解と支援」についての研修会を実施することとなった。

令和４年12月に公表された文部科学省の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」結果では、通常の学級に在籍し、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた子どもたちの割合は、小中学校において8.8%となっている。これらの子どもたちが、社会の一員として生活するためには地域住民などの発達障害についての理解が必要であり、より地域や社会に積極的に参加できるようにするためには、支援の考え方が重要となってくる。

２　研修会の実際

（１）日時

令和４年 10 月６日（木）18：00 ～ 19：30

（２）場所

錦江台小学校区公民館

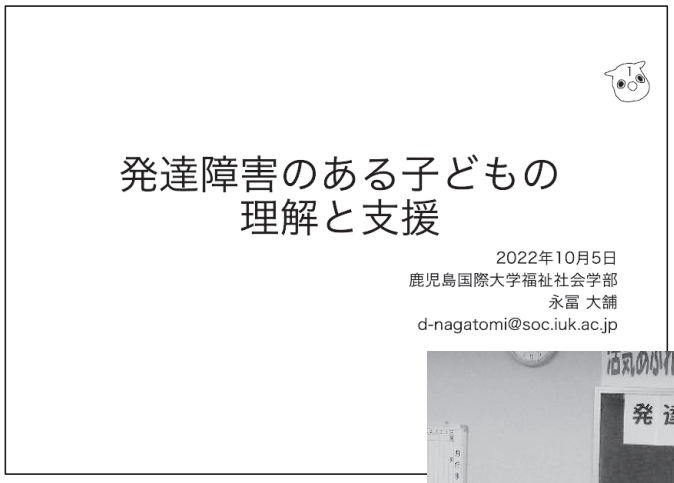
（３）参加者

錦江台まちづくり協議会会員ほか約 40 人

（４）講師

鹿児島国際大学福祉社会学部児童相談センター相談員永冨大舗（鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科講師）

（５）研修内容（永冨相談員の資料を一部抜粋）



イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

まるばつクイズ

○、×のどっちですか？

発達障害について知ろう

発達障害は10人に1人の割合でいる	○・×
発達障害の原因は、親の関わり方である	○・×
発達障害があると就職が難しい	○・×
薬を飲めば、発達障害は治る	○・×
発達障害は遺伝する	○・×
発達障害のある子どもには、厳しく関わることが大事	○・×

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

発達障害のある有名人

トム・クルーズ

ミッション:
インポッシブル

トップガン

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

発達障害のある有名人

ウィル・スミス

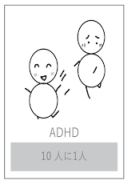
アニー

メン・イン
ブラック

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

支援が必要な子ども

ASD
54 人に1人



ADHD
10 人に1人

SLD
30 人に1人

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

支援が必要な子ども

首都圏の保育所、幼稚園、認定こども園を対象

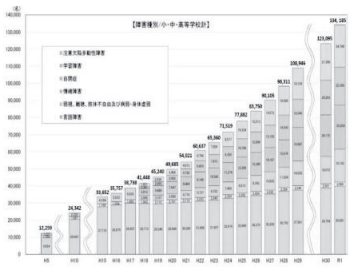
表4　診断を受けている子どもの状況

	選択肢（複数回答可）	回答数	構成比
(1)	自閉症スペクトラム障害（ASD）	411	30.7%
(2)	注意欠陥多動性障害（ADHD）	159	11.9%
(3)	知的障害（発達遅滞）	379	28.3%
(4)	聴覚障害	44	3.3%
(5)	視覚障害	21	1.6%
(6)	肢体不自由（脳性マヒ等）	85	6.3%
(7)	学習障害（LD）	27	2.0%
(8)	言語障害	76	5.7%
(9)	その他	138	10.3%
	無回答	490	-
	計	1830	100.0%

是枝ら(2017). 幼児期における特別なニーズのある子どもの支援に関する研究. ライフデザイン学研究, 13, 107-131.

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

通級指導教室に通う子ども



16

鹿児島県の状況

特別支援学級	
自閉症・情緒障害	886学級 (小学校　676学級　中学校　210学級)
通級指導教室	
自閉症・情緒障害	18学級 (小学校　17学級　中学校　1学級)
LD・ADHD	32学級 (小学校　23学級　中学校　9学級)

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

17

発達障害について

特定の脳の部位による機能不全

先天性の障害であり、遺伝性ではない

薬で治ることはない

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

18

自閉症スペクトラム障害

スペクトラムって？

2 意見・現象・症状などが、あいまいな境界をもちながら連続していること。
（小学館デジタル大辞泉）

こだわり

感覚の違い

コミュニケーション

みんな違って当たり前
みんな、何らかの好みの違い、こだわりがある

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

19

ASDの障害の3つ組

社会的相互交渉の障害
- 視線が合いにくい
- 人の表情や雰囲気を察して行動することが苦手
- 他者との関わりが乏しい(孤立型) or 受け身(受動型) or 不適切(積極奇異型)

コミュニケーションの障害
- 言語発達の遅れ
- 質問に適切に答えることが苦手(オウム返し、字義通りにとらえる)
- 抑揚のない話し方、ジェスチャーが乏しい

想像力の障害とその結果によってもたらされる反復的動作
- 図形や記号、特定のものに対する強い興味
- 回転するものや、同じ動作を繰り返すなどの常同行動
- 同じパターンでの行動を好む(気候、服装、道順、スケジュールなど)

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

20

ASDの障害特性

相手の考えと自分の考えが異なることが理解、推測することが苦手

自分の好み、意見を主張してしまう

自分が好きなものと相手が好きなものが異なることが理解できない

自分がやりたいのだから相手も応じるものだと考えてしまう

イントロダクション
発達障害のある子どもの理解
発達障害のある子どもの支援
質疑応答

21

ADHDの障害特性: 不注意

a. 細やかな注意ができず、ケアレスミスをしやすい
b. 注意を持続することが困難
c. 上の空や注意散漫で、話をきちんと聞けないように見える
d. 指示に従えず、宿題などの課題が果たせない
e. 課題や活動を整理することができない
f. 精神的努力の持続が必要な課題を嫌う
g. 課題や活動に必要なものを忘れがちである
h. 外部からの刺激で注意散漫となりやすい
i. 日々の活動を忘れがちである

これらの項目が6つ以上、6ヶ月以上継続

22

ADHDの障害特性: 多動性/衝動性

a. 着席中に、手足をもじもじしたり、そわそわした動きをする

b. 着席が期待されている場面で離席する

c. 不適切な状況で走り回ったりよじ登ったりする

d. 静かに遊んだり余暇を過ごすことができない

e. 衝動に駆られて突き動かされるような感じがして、じっとしていることができない

f. しゃべりすぎる

g. 質問が終わる前にうっかり答え始める

h. 順番待ちが苦手である

i. 他の人の邪魔をしたり、割り込んだりする

これらの項目が6つ以上、6ヶ月以上継続

23

SLDとは

知的発達に遅れがない

中枢神経系の機能障害

学習面に困難を示す

24

SLDの種類

読みの障害(ディスレクシア)

- 文章を正確に読めず、読み間違いが多い
- 文章を読むことができても、その意味を理解していない

書きの障害(ディスグラフィア)

- 字が整っておらず、読みづらい字を書く
- 漢字やカタカナを覚えることができず、よく書き間違える

算数の障害(ディスカリキュリア)

- 数を数えたり、計算することが苦手
- 時計を読んだり、図形を模写することが苦手

26

支援の原則

障害を治す

ではなく

活動・参加を可能にする

27

支援の原則

みんなと同じ、みんなと一緒が本当に幸せ？

- 障害の有無に限らず、できること、できないことがあって当たり前
- だからこそ、障害があってもできること、得意なことを伸ばすことが大事

人と違っていて、恥ずかしい？

- 方法、環境が違って当たり前
- 本人が幸せになること、そのための方法をみんなで考えること

相談する、抱え込まないことが大事

- 困っている人がいたら助ける、困っていたら助けを求める
- 支援を受けないことよりも、必要な支援を求められること

３　ホームページの内容（鹿児島国際大学のホームページより引用）

児童相談センター企画研修会　「発達障害の理解と支援」を開催

10 月 6 日木曜日に、児童相談センターの永冨相談員が「発達障害の理解と支援」のテーマで、錦江台 まちづくり協議会との共催の研修会を開催しました。近年、発達障害という用語はメディアや書籍等で広く知られるようになりました。それは地域も同様で、特別な支援を必要とする子どもとして、保育所、学校、児童クラブ等でも見られることが増えてきています。一方で、特別な支援を必要とする子どもや保護者が地域で生活していくためには、周囲の理解や支援を必要としています。そのためにも、地域住民が発達障害について正しい理解と支援方法を知ることは非常に重要になってきていることから、今回のテーマが設定されました。

研修会が開始された後、「発達障害という言葉を聞いたことがある人はいますか？」という相談員の質問に対して、全ての参加者が手を挙がりました。その後、発達障害に関するクイズや診断されている著名な人たちの紹介から始まり、和やかな雰囲気で開催されました。普段、テレビで見聞きしている著名な人にも発達障害があることを知り、驚きの声があがっていました。また、発達障害である自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害の特徴について、相談員が関わってきたエピソードなどを含めた具体的に説明が行われると、参加者の方々からは頷きや驚きの表情などが見られました。40 名近くの参加者が集まり会場は満席となったことから、地域の方々のテーマに関する興味の高さが窺い知ることができました。

以下は参加者からの感想です。

■できない事に目を向けるのではなく、その子にできる事を一緒に見つけて伸ばしてあげようと改めて思いました。

■発達障害について、しっかり分かっていないところがありましたので、種類があることも分かり、色々学ばせていただきました。支援の必要があるときは、少しでも支援していけたらと思います。

■あらためて、障害について知ることができました。1 人ひとりの個性として受けとめることが必要ですね。

■昔はあまり馴染みのなかった発達障害という言葉ですが、自分に子どもができてよく耳にするようになりました。よく耳にする割には詳しいことは分かっていませんでしたが、知識のない人にとってとっても分かりやすい説明で、非常に良い勉強になりました。

最後に、今回の研修会を開催した感想として、発達障害という用語を聞いたことがあっても正しい知識や理解が浸透していないように感じました。身近になったからこそ、地域住民が正しい知識と理解を持ち、保護者や子どもを地域で支えることができる社会になれたらいいと思いました。そのためにも、今回のような研修会を継続して行っていきます。

４　研修会を実施して

参加者の感想にもあるように、研修を通して、発達障害について理解し、発達障害のある子どものできることを見付け、良い面を伸ばし、支援していきたいという前向きな姿勢になってきたことは、一定の成果があったと考える。しかし、１回の研修会で全てが解決したのではなく、発達障害の理解と支援の始まりである。発達障害に限らず、真に、「みんなで支えあい助け合うまち」「人にやさしく住みよいまち」になるために、様々な研修を積み重ね、地域の方々が何かしらの行動に移すことができればよいと考える。そのために、児童相談センターが積極的に資源を提供できるようなシステムづくりが望まれる。